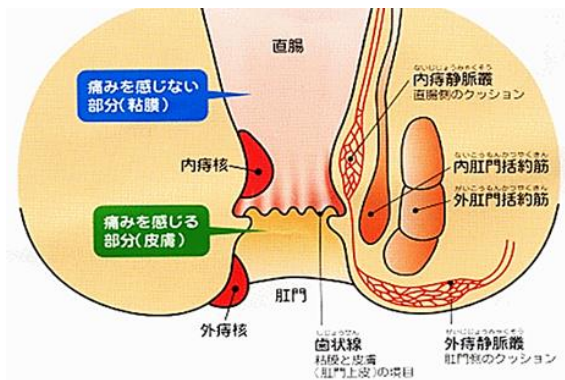


痔核（いぼ痔）のお話

外科・肛門外科 表 和彦

肛門周辺の粘膜の下には、血管が集まって肛門と閉じる動きをするクッションのような部分があります。肛門への負担が重くなると、クッションを支える組織（支持組織）が引き伸ばされ、クッションの部分が大きくなり、出血したり、肛門の外に出たりするようになります。これが**痔核（いぼ痔）**です。

痔核には、直腸側にできる**内痔核**と肛門側にできる**外痔核**があります。また、内痔核が大きくなって脱出するようになると、肛門側の痔核つまりが外痔核を伴って**内外痔核**という状態になることもあります。内痔核は出血しますが痛みはなく、外痔核は出血はしませんが腫れるとひどく痛みます。内外痔核は出血と痛みが伴います。



痔核は肛門側への脱出（脱肛）の程度により次のように分類されます。

- ★第1度：出血が主な症状で、痔核が肛門の外に脱出しない
- ★第2度：排便時に脱出するが、排便後自然に元に戻る
- ★第3度：脱出後、手などで押し込まないと戻らない
- ★第4度：排便と無関係に常時脱出している

痔核の治療としては、まず肛門を清潔にして温め、便秘や下痢にならないよう便通を整えます。食事療法だけでは便通が整わない場合には、整腸剤や緩下剤を服用します。それに加えて座薬や軟膏を使用し、症状に応じて鎮痛剤や抗炎症剤を服用します。

それでも治らない脱肛の場合は手術（痔核切除術）を考慮します。最近では痔核に薬剤を注射して、痔に流れ込む血液の量を減らし、痔を硬くして粘膜に癒着・固定させる治療法、痔核硬化療法が主体となってきました。これも一種の手術なのですが、痔核を切り取る痔核切除術とは違って傷口はなく、術後の出血や痛みが少なく入院期間も短縮できるメリットがあります。痔核に悩んでいる方は一度、当院、外科・肛門科にご相談ください。